

## 地域医療研修感想文（2023/4/1-2023/5/31）

東京慈恵会医科大学附属病院 研修医 2年 青木尚徳

まずはじめに、2か月間お世話になった津南病院の先生方、職員方、患者様含め津南町の方々に感謝申し上げます。本当に温かく迎えてくださり、誠にありがとうございました。

津南病院に研修が決まった際、まずはどんな町であるのか、どこに位置しているのかサーチするところから始まりました。人口の多くは高齢者、google mapを見ても回りは緑に囲まれており、町の様子を見ても人があまり映っていない。とても閑散とした印象を受けました。東京生まれ東京育ちの自分からすると今まで経験したことのないような土地であり、不安・困惑と好奇心・高揚感が入り混じったような不思議な感覚になっていました。研修のタイミングとしては1年目が終わり、2年目のスタートという事で心新たにスタートができ、1年目で学んだ内科的管理、救急対応を実践する場として、主体性をもって医療にあたれると伺っていたので、その点で良かったのではないかと思います。

いざ津南へ。湯沢インターから津南までの道にまずは衝撃を受けました。雪をかぶった大きな山々が目の前に広がり、その絶景をみながら峠道を進んでいきました。思わず途中で下車し空気や景色を堪能していました。流れる川は、どの川も見たことのない澄んだきれいな色でありこれにも感激しておりました。官舎は広く綺麗であり、ベランダから眺める山々や畑を見ながら明日よりはじまる津南病院での研修がどんなものになるのか全く見当がつかず、そわついたまま研修がスタートしました。

津南病院では外来、病棟管理、救急を主に行わせて頂きました。

外来は普通の研修病院ではすることができず、津南での外来が人生初の外来でありました。最初の外来の前はまず予習をして、わからない薬は検索して調べて臨みました。ただいざ始まってみると初対面という事もあり、人柄を把握する事、何をきくか、次はなにをすればいいか総合的にうまく整理しきれずに進んでしまいました。しかし次第に外来を行うにつれて要領よく進める方法が分かってきて、患者さんの話にもゆっくり耳を傾ける時間がよりとれるようになってきたと思います。なによりも患者さんの人柄が良い方ばかりで楽しみながら学ばせて頂くことができました。この場を借りて御礼申し上げます。

病棟では大学病院と大きな違いがありました。まずは入院の大半が90歳以上の方であるという事。次に主治医で患者さんを診るという事です。大学病院では基本的に幅広い年齢の方が入院されており、基本的には上級医の方針に沿って点滴や治療を行ってききましたが、ここでは点滴や治療方針を自分で組み立てて抗生剤や輸液の量等を調整させて頂きました。自分が主治医という事になることは大きな責任感を伴う事なのだと初めて実感することができ、患者さんにベストな治療はなにかを参考書等を使って積極的に調べる姿

勢がついたと思っております。そして一番違うと思ったことは、治すこと、家に帰る事が全ての患者さんにとって理想なのではないということでした。大学病院ですと、まずは病期を治すためにあらゆる手段で積極的に治療にあたり、家に早く帰ることを目標とすることがほとんどでした。しかしここではご高齢の方がほとんどであり、積極的な治療を望まない方であったり、過度の延命処置を希望されないご家族が多くみられました。

老々介護の現状から、お互いに病院であったり施設を希望する方も多く、地域ならではの考えや終末期の最後のあり方を学ぶことができました。

救急外来では、まわりにクリニックなどが存在しないために、花粉症の方であったり、主に風邪の方の診察を多くすることができました。症状によって薬を変更したり、ただの風邪だけでなく、なにか病気が隠れていないか問診したり検査したりすることを意識することが大切だということに改めて気づきました。

これらの他にも、訪問診療で患者さんのご自宅に訪問して診察を行ったり、恵福園で患者さんとお話ししたり、町民の方と健骨体操、水中運動したりと、津南町の方々の生活の一部を経験させていただきました。共通することはどこにいても皆様が優しく接して頂き、少し緊張していた自分にとって、とてもありがたかったです。中には100歳を超える方にも出会い、歩いたり話したりしているお元気な姿にはとても驚かされ、その姿に私も元気を頂きました。

最後に、この2ヵ月間という短い間でしたが、山々に囲まれたのどかな、非日常のような日々を過ごさせて頂きとても貴重な経験になりました。町の方々もやさしくフランクに接していただいて、とても過ごしやすかったです。

最後に関わって頂いたコメディカルの方々、丁寧に教えていただいたり話を聞いてくださった先生方本当に有難う御座いました。この2ヵ月の経験を生かして、これから医師として成長していきたいと思えます。